

地域の文化継承等に寄与

只見町昔ばなしの会 福島県文化表彰受賞



▲受賞報告に役場を訪れた只見町昔ばなしの会の皆さん

只見町昔ばなしの会が、令和6年度福島県教育・文化関係表彰を受賞しました。

只見町昔ばなしの会は、昔ばなしを後世に伝えたいという思いを持った方が集まり、様々なイベント・行事で、方言を大切にしたり地域に伝わる昔ばなしを語るなどの活動を行っています。

今回の受賞は、只見町昔ばなしの会が幅広い年代における郷土理解と郷土愛の醸成に貢献していることや、昔ばなし・わらべ歌などを組織的かつ持続可能な形で保存継承していることなどが、評価され受賞となりました。

美味しい新そばを堪能 朝日そばまつり

朝日地区地域づくり委員会が主催する「朝日そばまつり」が12月8日に開かれ、約50人が参加しました。

冒頭で目黒俊行会長は「親睦を深める場としても楽しんでほしい」と挨拶し、熊倉そば愛好会の目黒義行さんは「美味しいと食べていただけると作り甲斐がある。美味しいおそばを食べて元気に過ごして欲しい」と話しました。

また、今年は「はぎの会」による舞いが披露され、見て、食べて楽しんだそばまつりとなりました。



▲そばまつりを楽しんだ皆さん

車両、資機材を更新

消防署只見出張所の救急車が新しくなりました



▲地域住民のため日々ご尽力いただいている消防職員とお披露目された救急車

南会津地方広域市町村圏組合消防本部において、災害対応特殊救急自動車(救急車)引渡式が12月4日に行われ、只見出張所に配置されました。

また、配置された救急車のお披露目が町役場で関係者らに行われ、只見出張所消防職員が救急車の仕様や救急資機材の説明をしました。

配置された救急車は、最新の資機材が積載されており、傷病者の負担軽減や蘇生機会を高める他、対応する職員の負担軽減などが期待されています。

子どもたちに笑顔が届けられました

町内各地でクリスマスイベントが行われました

12月のクリスマスシーズンは、町内保育所や各地区でクリスマスを楽しむイベントが開催されました。イベントでは、クリスマスの由来を学んだり、サンタクロースが子どもたちにプレゼントを配ったりするなどし、参加した子どもたちは素敵なクリスマスを過ごしました。



▲朝日クリスマス会



▲かるがもクラブクリスマス会



▲保育所クリスマス会（左から只見保育所、朝日保育所、明和保育所）



安心は最大のサービス

只見スキー場オープン式

只見スキー場オープン式が12月20日に只見スキー場ロッジで行われ、来賓の方や関係者らがスキー場運営の安全祈願とオープンを祝いました。

スキー場を運営する株式会社只見町観光公社の新國社長は「安全は最大のサービスをモットーに楽しいスキー場と美味しい食事を提供したい」とあいさつされました。

その後、渡部町長からお祝いの言葉が述べられ、佐藤町議会議長の発声で安全祈願の乾杯が行われました。最後は、オープンをお祝いしてテープカットが行われました。

また、今シーズンから新しい圧雪車が稼働しています。



▲テープカットを行う来賓の方や関係者

伝統文化を未来に繋ぐ

ブナセンター講座「マタギの里でしな布を織る」開催



▲森と共生する暮らしについて話す大滝さん

ブナセンター講座「マタギの里でしな布を織る」が11月30日に開催され、20人が参加しました。

講師を務めた現代美術家・しな布作家である大滝ジュンコさんは、現在新潟県村上市山熊田集落に在住し、日本最古の織物であるシナノキの樹皮を使ったしな布を作成しています。

講座では、山熊田集落に住んだきっかけ、集落の山を利用する伝統的な文化、しな布が作られる工程、伝統文化の継承における問題、伝統継承と移住を掛けあわせた取り組みなどを紹介しました。

大滝氏は、「失われたら取り戻すことができない貴重な文化や技術を未来に繋げるためには今が正念場だ」と熱を込めて話されました。

ブナ林を生かす

ブナセンター企画展「雪国のブナを極めるⅡ」開催中

ただみ・ブナと川のミュージアムでは、ブナセンター企画展「ブナ林の木に生かされる 雪国のブナを極めるⅡ」が開催中です。

本企画展では、雪国の暮らしと文化の礎となってきたブナ林の木材や燃料としての使われ方に焦点をあて、その歴史を振り返るとともに、現代の生活にブナ林を生かす取り組みについて、展示パネルや、実際に只見で生産された炭などを展示し解説します。

展示期間は6月30日(月)までです。展示を通して、ブナ林がこれだけ実際の生活に身近であったこと、これからの活用の可能性を知ることができる企画展です。ぜひ一度ご覧ください。



「ディスカバリー農山漁村(むら)の宝」

合同会社ねっか 優良事例に選定されました



▲認定証を手にする脇坂さん(中央)と三瓶さん(右)

合同会社ねっかが、地域活性化などの取り組みを表彰する「ディスカバリー農山漁村(むら)の宝」で、ビジネス・イノベーション部門に選ばれました。合同会社ねっかが酒米生産の農業と酒造業で雇用を生み出していることなどが、今回の選定につながりました。

また、審査員特別賞「楽しさ・想いが次世代につながる地域貢献賞」を受けました。

当表彰は農林水産省の主催で行われています。今回で11回目の開催で、全国から30の事例が優良事例として選ばれ、福島県内からはねっかが選ばれました。

第28回ボランティア・スピリット・アワード 角田杏さん 全国賞を受賞



▲トロフィーを手にする角田杏さん（右から2人目）

地域のため、社会のため、誰かのために自ら行動を起こしている中学生・高校生を称える「ボランティア・スピリット・アワード」の全国表彰式が12月15日に開催され、角田杏さん（只見中2年）が昨年の最高賞受賞に続き、全国賞を受賞しました。

同表彰では、全国7ブロックでブロック賞に選ばれた30人（または団体）から、中学生部門・高校生部門から最高賞が各1組、全国賞に8組が選ばれました。

角田さんは「只見線を世界一応援される鉄道にしたい。只見線の魅力を広く知ってもらえるよう地につけた活動をつづけたい」と今後の意気込みを話しました。

持続可能な社会をつくろう

只見中 只見町に政策提言

只見中学校生徒による政策提言の発表が12月20日に町役場議場で行われ、只見中3年生24人が只見町に政策を提言しました。

発表会では、生徒が6班に分かれて、総合的な学習の時間に学んだことから地域の課題を解決するために考えた内容を、町長や課長職、町議会議員に向けて発表しました。

発表内容には、農業をもっとアピールしていくことや夏の只見スキー場の活用、自然保護のためにアニマルパスウェイ（道路や鉄道などで分断された森を繋ぎ、野生動物の通り道とするもの）の設置などの提案だけでなく、自分たち生徒ができることについても発表しました。



▲提言発表を行った只見中の生徒

切ない初恋の記憶とともに旅をする

映画「青春18×2」町民上映会開催



▲（左から）吉田瑠美さん、藤井監督、前田プロデューサー

只見町もロケ地になった映画「青春18×2 君へと続く道」の町民上映会が12月22日に開催されました。

上映会と併せて、同作品の監督の藤井道人さん、プロデューサーの前田浩子さん、劇中のアミが描く絵を担当した画家で絵本作家の吉田瑠美さんの3人によるトークイベントが行われました。

イベントの中で3人は、撮影期間中に触れた只見町民の温かさや上映会に参加した方に感謝を伝えました。